

交通空白地有償旅客運送（事業者協力型自家用有償旅客運送）の更新 及び指定乗降場所の新設について

路線名：山吉田ふれあい交通

運行主体：山吉田ふれあい交通運営協議会

更新日：令和８年４月１日

当該地域を運行している新城市営バス長篠山吉田線の利用者のほとんどは、鳳来中学校に通学する生徒やＪＲ飯田線本長篠駅を利用する高校生であり、自家用車を利用する地域住民は、市の中心市街地や浜松方面へのおでかけが中心となっている。

地域住民の高齢化は顕著で、最寄りのバス停まで歩いて移動することさえ困難な高齢者が増えている現状や地域の実情から、自分が自家用車を使えなくなっても、地域で安心して暮らし続けられることをめざし、地域住民同士が助け合い、地域運営による持続可能な移動手段として、令和３年４月から豊鉄タクシー株式会社の協力による山吉田ふれあい交通の運行を開始した。

事業者協力型自家用有償旅客運送の有効期限が令和８年３月３１日までとなっており、引き続き事業を継続していくための更新に向けた協議及び設立当初から浜松方面への通院や買い物の利用ニーズに対応するため、新たに浜松市内での乗降場所を追加したく、協議をお願いするものである。

なお、新たに浜松市内での乗降場所の追加のほかに協議すべき点はなく、現行のまま更新する予定となっている。

<更新の必要性>

令和３年４月１日から山吉田ふれあい交通の運行を開始し、５年が経過するが、この間地域での普及及び利用促進策を実施しながら、地域住民への周知を進めつつ、鳳来南部地域としても必要不可欠な移動手段として地域全体の合意形成及び地域の協力体制が整い、山吉田ふれあい交通が必要不可欠な存在となっている。

一方、タクシー事業者としても、現状では鳳来南部地域住民の移動ニーズに対応することは困難であり、山吉田ふれあい交通の運行管理業務に対して協力体制を構築している。

もともと、山吉田ふれあい交通については、鳳来南部地域の実情に即した移動手段確保に向けてＳバス長篠山吉田線の効率化や利便性向上につなげていくために、先行して地域に定着させていくことを期待していたが、現在は地域自治組織が中心となった住民主体の検討組織「山吉田地域の交通を考える会」においてその実現に向けた検討が進められている。また、令和４年９月末をもって遠鉄バスの路線廃止をみても、将来的にもバス路線による本市と浜松市との接続は困難と考えており、今後も山吉田ふれあい交通と協力し、市民のおでかけしやすい地域公共交通ネットワーク形成を進めていきたいことから、山吉田ふれあい交通の更新継続が必要と考えている。

<基本方針等の整合性>

新城市地域公共交通成計画

基本方針 1 暮らしに即した地域公共交通をつくる

3 持続可能な地域公共交通をつくる

新城市公共交通ネットワークを構成する路線の位置づけ・役割

地域の状況に即した地域公共交通

- ・各地域全域と主要拠点若しくは主要拠点と接続する生活交通軸とを結ぶ地域の状況に即したおでかけ交通
- ・地域主体の検討組織が中心となって、地域の実情に応じた変化。改善を図りながら守り育てていく